

## 福知山公立大学 2018年度 入学式 式辞

本日、福知山公立大学に入学されたみなさん、おめでとうございます。本学の教職員をはじめここで働き学ぶすべての者たちを代表して、みなさんを新たな仲間として熱烈に歓迎します。

ご家族ご親族の方々にも心からお慶びを申し上げます。また、大橋一夫福知山市長様、大谷洋介福知山市議会議長様、井上重典京都府議会議員様、谷口伸之福知山公立大学教育後援会会長様をはじめ、ご臨席賜りましたご来賓各位に厚く御礼申し上げます。式典の開会にあたり、先ほど、この度本学が新たに制定した学歌と応援歌の演奏で入学生を迎えてくださった福知山混声合唱団の方々にもこの場をお借りして篤くお礼申し上げます。本当に有難うございました。

入学生のみなさんはこのように地域の多くの方々から祝福され、迎えられていることを心にとめておいてください。

さて、みなさんがこれから学び、生き抜いていこうとしている現代社会は激動の時代だと言われています。曰く、少子高齢化、日本の人口減少、地域社会の弱体化どころか場合によっては「地方消滅」、自然環境の激変と不安定さの増大、他方でIT技術の急速で飛躍的な発展による第4次産業革命時代の到来、それらの中で求められる持続可能な社会の維持、等等。みなさんはもう聞き飽きているかもしれません。だが、こんなことは今に始まったことではありません。

そもそも19世紀前半に産業革命とともに確立してきた資本主義の社会は、機械制大工業とそれを基礎にかたちづくられる人間同士の関係、つまり生産関係とひいては社会関係全般を、絶えず革命していかなければ生存できない。生産の絶えることない変革、あらゆる社会状態の絶え間ない動揺、永遠の不安と騒乱は、以前のあらゆる時代とは違う近代資本主義社会の特色なのだ、世界史に残る19世紀中葉の著名な宣言の中でドイツの社会科学の巨人は見通していました。

また、この時代の前後に生きた詩人たちもそのことを深く自覚していました。

同じドイツの詩人は「この動揺する時代に自分までぐらつくのは災いを増すばかりだ。おのれの志を守ってゆずらぬ者だけが世の中を作り上げて行くのだ。」と言い、フランスの詩人は「未来はいくつか名前を持っている。弱者にとっては『不可能』。臆病者にとっては『未知』（または、不可知、わからない）。考え深く勇気のあるものにとっては『理想』。」だという言葉を残しています。

つまり、近現代社会にあっては不安定さと激動は絶え間なく、永遠に、繰り返し現れます。しかし、起ち現われる疾風怒濤に晒されながらも、生き抜き、新たな社会と時代を創る営みを続けているのが地域社会で生き、暮らし、活動している人びとなのです。この地域の人びとと交わり、人々とともに学びあって、未来の創造に主体的に加わる人間にならねばなりません。「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」という本学が掲げている基本理念はそういう意味です。繰り返しになりますが、自分たちの地域社会を持続可能な生活の場に変えていこうと今を懸命に生きている人びとから学び、その活動に加わり、それを通じて大袈裟に言えば人類史の未来に主体的に参画できる人間になるということです。培う学力とは、そういう生き方のできる意欲と能力のことです。

本学での学生生活を通じて、みなさんには未来を担い、創りあげるために「おのれの志を守ってゆずらぬ者」、未来に「理想」を掲げて進む「考え深く勇気のあるもの」になってほしいと切に願います。

理想をもって現実をしっかりと踏まえ分析し、把握して、行動しつつ思索し、未来を創る考え深い真の勇気ある者になってください。

2018年4月3日

福知山公立大学長 井口和起